

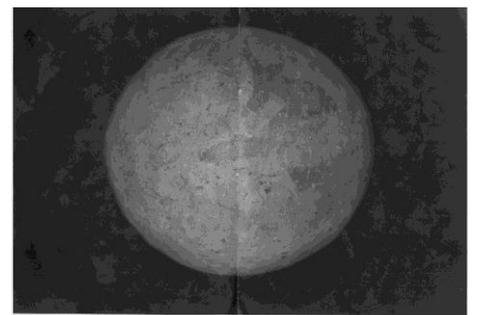
何を書いてあるかな!!

古墳時代の壺の底部に墨書の痕跡が...



古墳時代の壺の底部に書かれた墨書 〓当館撮影

行橋市延永ヤヨミ園遺跡 包含層出土土器から、また また城門主任技師が発見



墨書土器の赤外線写真 〓当館撮影

現在、出土遺物の整理作業を当館文化財整理室で行っている、行橋市延永ヤヨミ園遺跡で、また新発見があったのでレポートする。

延永ヤヨミ園遺跡の谷（包含層）から出土した古墳時代の壺の底に墨書の痕跡を当館の若きエース★城門義廣主任技師が発見した。赤外線写真（右写真）や古代文字の研究者などと検討を行った結果、墨を筆状のもので書いた可能性が高いこと、墨書であるならば国内でも非常に古い事例であることを確認した。

墨書で何を書いているかは、現在検討中だが、古代文字の研究者によると、文字ではない

印象を持っているようだ。

今後城門主任技師を中心に周辺出土土器を再度広げて、欠けている口縁部の破片の探索と、土器の詳細な時期の検討、墨書の類例の調査などが実施される予定だ。城門主任技師ならば、これらの課題に答えてくれること間違いなしです。是非ご期待ください。



横から見た墨書のある壺

何を書いてあるかは非常に難しい問題です。その解明に向けて、他の研究者と協働で頑張ります。



またまた熱く意気込みを語る城門義廣主任技師



出土した杓子状土製品・担当の大庭主任技師もおったまげた!

出てきて、「おったまげた」本紙で何回も紹介している塔田琵琶田遺跡で、またまた珍しい発見があった。それは、つい先日の3月8日に、古墳時代前期の竪穴住居跡の床面から、全長30cmほどのおたまたま状の土製品を発見したことである（左写真）。残念ながら把手の先端がわずかに欠けていたが、小型のものには出土することはあるものの、このような大型の、かつほぼ完形のものには非常に珍しい。古墳時代には一般的に木製のおたまたまを使っていたと思われるが、今回発見されたものを実際に使っていたのか、その重さともろさから今後検討します。